

氏名	浦丸 直人	部署	共通教育科	職名	准教授
研究分野	医薬品化学・薬物代謝学・環境化学				
学位	博士（医薬学）				
学歴	2003年第一薬科大学薬学部薬剤学科、2005年岡山大学大学院自然科学研究科博士前期課程薬品化学専攻、2011年広島大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程創生医科学専攻				
経歴	2005年日本薬科大学薬学部助手、2008年日本薬科大学薬学部助教、2014年日本薬科大学薬学部講師、2020年日本薬科大学院講師、2024年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本薬学会、日本内分泌撹乱物質学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Synthesis, physicochemical characterization, and investigation of anti-inflammatory activity of water-soluble PEGylated 1,2,4-Triazoles.	共著	あり	○	Bioorg Chem, 147, 107312	Li S.M., Zeng W.Z., Chung C.Y., <u>Uramaru N.</u> , Huang G.J., Wong F.F.	2024.6
2	Synthesis, design, and antiproliferative evaluation of 6-(<i>N</i> -Substituted-methyl) pyrazolo[3,4- <i>d</i>] pyrimidines as the potent anti-leukemia agents.	共著	あり	○	Bioorg Chem, 148, 107424	Chung C. Y., Li S. M., Zeng W. Z., <u>Uramaru N.</u> , Huang G. J., Juang S. H., Wong F. F.	2024.7
3	Uptake, elimination and metabolism of brominated dibenzofurans in mice.	共著	あり	○	Toxics, 12(9), 656.	Tue N. M., Kimura E., Maekawa F., Goto A., <u>Uramaru N.</u> , Kunisue T., Suzuki G.	2024.9
4	Riboflavin as a coloring agent of tablets affects the photostability of manidipine after the change of dosage forms.	共著	あり	○	Photochem 2024, 4(3), 377-387	Kawabata K., Tsukimori M., Hirai K., Akimoto S., <u>Uramaru N.</u> , Inagaki M., Nishi H.	2024.9
5	Effects of di-(2-ethylhexyl) phthalate and its metabolites on transcriptional activity via human nuclear receptors and gene expression in HepaRG cells.	共著	あり	○	Toxicol In Vitro, 101, 105943.	Yasuda A., Murase W., Kubota A., <u>Uramaru N.</u> , Okuda K., Hakota R., Ikeda A., Kojima H.	2024.12
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし						
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1	該当なし						

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	生化学	○	15	教科書、参考書等を独自にまとめて作成した資料を配布し、講義中に学生が重要事項や補足説明を書き込み、学習支援を行っている。また、図表等の説明には、パワーポイントを使用し、さらに、学生が自身の理解度を図るための教材（演習問題等）も配布している。
2	化学	○	15	我々の生活や医療系分野で使用されている身近な化学物質を取り上げて、化学製品の成分や化学物質の健康への影響を概説した。
3	地球環境論	○	8	地球環境問題を概説するとともに、グループワークによる地域における環境問題についての探求学習を行った。
4	教養ゼミナール	○	15	我々の生活や医療系分野で使用されている化学物質の生体影響や環境影響に関する様々な課題をグループワークを通して学習し、化学物質のリスクとベネフィットの概念を理解するとともに多角的視点にて化学物質の使用について考えることができる力の育成を支援した。
5	IPW論		15	患者・利用者中心の支援活動をチームで行うための多職種連携の基本的な考え方・理論を教授するとともに異なる学科の学生で構成されたグループでのチーム活動を支援した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	該当なし			
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ヒューマンケア体験実習		15	保健・医療・福祉の分野での援助を行う上での共通的な概念であるヒューマンケア実習におけるグループワークの支援、実習先への引率および指導を行った。
2	自然科学実験		15	自然現象や科学的思考の学修を目的とした物理学・生物学・化学の3分野実験のうち、化学分野の実験担当とプレゼンテーション指導を行った。
3	化学実験	○	30	化学分析や有機合成を通して、化学の理論への理解を深めるとともに、化学実験における基本的な知識・技能・態度を身につける学習支援を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	該当なし		主指導	副指導
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	日本薬科大学薬学部非常勤講師	2024.4～2025.3	薬学必修専門科目である「化学物質の生体影響」と選択必修科目である「鑑識化学」を行い、毒性学と裁判化学を教授した。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	2024 NPU Summer Program	日本薬科大学	海外短期留学生への講演：Let's explore Japan	2024.8
2	2025 NPU Winter Program	日本薬科大学	海外短期留学生への講演：Let's explore Japan	2025.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	埼玉県教育委員会	学校薬剤師（埼玉県立伊奈学園中学校）		2023.3～現在
2	伊奈町教育委員会	学校薬剤師（伊奈町立小室中学校）		2024.4～現在

(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	熊谷西高等学校	探求学習支援：熊谷西高等学校自然科学部への研究支援	2024.4～2025.3
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	学生支援委員会		2024.4～2025.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	親睦会幹事		2024.4～2025.3
3	大学広報活動	オープンキャンパス開催支援		2024.8
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			